

## 本堂客殿建設進捗状況



脇間



内陣



御拝の獅子



山号額



客殿広間

## 寿楽院本堂客殿建設最新情報

### 十三仏の事典 七回忌の阿闍如来

阿闍如来は、無動如来とも呼ばれ、菩提心(信心)が堅固で、不動の精進をめざしている仏さまということ。そのお姿は、左手で衣のすそをつまみ、右手は膝の上におき、指先を大地に触れています。これは悪魔を降伏させるお姿であると言われていました。亡き人を三回忌から七回忌まで、阿闍さまは導いてくださいます。発心即菩提という言葉があります。発心とは発菩提心ということであつて、悟りをめざす心をおこすことを意味し、発心したならば、それは菩提すなわち悟りを開いたことと同じようなものであるということ。それは他のいかなる考え方・



生き方よりも、仏教の教えによる生き方の方がすばらしいのだということ。それは、一般社会の知識よりも、仏教の知恵の方が、はるかに人類の幸せになるのだという信念です。仏教では、三世にわたる考

え方をするようになっていきます。三世とは、過去世と現世と来世のことです。この三世にわたってみるときに、真実のことが明らかになるということ。この世だけのことではなくて、三世にわたってみるときに、仏教の教えの尊さを理解して、発心もいっそう強まっていきます。阿闍さまが、ご自身の着ている衣を握っておられるのは、その決意の強さを表わしているのです。右手を大地に触れておられるのは、大地の無尽蔵の生命力をもって、発心をゆるぎないものにしようということ。こうして再び発心が高まり、これまでの十人の仏さまの教えについての復習にも身が入ることになります。信仰心は、特に修行や体験を積んでいかなないと深まらないものです。また、自己心が強いと本当のことは解りません。どうしても自分の方に都合のよいように解釈してしまうからです。無心の境地というよりは、全体の幸せを願う心でみていくと、真実が解ってきます。この新しい人生の道も開かれてきます。